

# パドセブ<sup>®</sup>点滴静注用30mg 調製方法ガイド



## パドセブ



バイアル外観



薬剤外箱

## 用意するもの



日本薬局方注射用水

ロック式  
シリンジ

輸液バッグ又はボトル\*  
(日本薬局方5%ブドウ糖注射液、  
日本薬局方生理食塩液又は  
乳酸リンゲル液)



注射針



調製方法は Astellas  
Medical Netにて、動画  
でもご覧いただけます。

\*: 輸液バッグ又はボトルは、希釈液(希釈後の濃度0.3~4.0mg/mL)を入れるための十分な容量にすること。

## 1

### 投与量の算出

パドセブ必要量  
(mL)

$$= \frac{1.25^{\text{注1}} (\text{mg/kg}) \times \text{体重} (\text{kg})}{10^{\text{注2}} (\text{mg/mL})}$$

- 1回量として125mgを超えないこと。

必要なバイアル数  
(本)

$$= \frac{\text{必要量} (\text{mL})}{3 (\text{mL})} \quad (\text{端数切り上げ})$$

- 1バイアルから最大3mLまで採取できる。

希釈後の濃度  
(mg/mL)

$$= \frac{1.25^{\text{注1}} (\text{mg/kg}) \times \text{体重} (\text{kg})}{[\text{パドセブ必要量} (\text{mL}) + \text{輸液バッグ又はボトル容量} (\text{mL})]}$$

- 希釈後の濃度は 0.3~4.0mg/mL でなければならない。

注1: 副作用の発現により減量する場合は、減量の目安を考慮して算出する(裏面参照)。

注2: 1バイアルを注射用水3.3mLで溶解したパドセブ濃度

## 2

### 溶解

#### 1 注射用水3.3mLをバイアルの内壁に沿って無菌的に注入



- 凍結乾燥粉末に直接かからないように注意してください。
- パドセブ溶液は10mg/mLの濃度となります。

#### 2 バイアルを振らずに緩徐に攪拌し、完全に溶解



- バイアルを振とうせず、ゆっくり回転させてください。

#### 3 気泡がなくなるまで静置

溶解直後



- 溶解後の液は無色澄明~わずかに乳白光を帯びた微黄色です。

- 目視により確認し、完全に溶解しない場合(目視できる粒子状物質がみられるなど)や変色が認められた場合には、使用せずに廃棄してください。

静置後



- 本剤を溶解後、速やかに希釈してください。速やかに希釈しない場合は、2~8°Cで保存し、24時間以内に投与してください。

- 直射日光に当てないでください。

## 3

### 溶液の希釈

#### 1 パドセブ溶液をバイアルから採取



- 必要量のパドセブ溶液をバイアルからシリンジでゆっくり抜き取ってください。
- 採取量は1つのバイアルから3mLまでとしてください。

#### 2 パドセブ溶液を輸液バッグに注入し、緩徐に攪拌



- 希釈後の濃度が0.3~4.0mg/mLとなるように、輸液バッグに無菌的に注入してください。



- 泡立たないように静かに回転させ混和してください。
- 他剤と混和しないでください。
- 直射日光に当てないでください。

#### 3 攪拌後に輸液バッグを目視で確認



- 希釈後の液は、無色澄明~わずかに乳白光を帯びた微黄色です。

- 目視により確認し、粒子状物質や変色が認められた場合には、使用しないでください。

- 調製後、希釈した液は速やかに使用してください。なお、やむを得ず希釈した液を保存する場合は、2~8°Cで保存し、希釈後16時間以内に使用してください。残液は廃棄してください。

## 4

### 投与

- 投与は、点滴ラインより30分以上かけて点滴静注してください。本剤は、中心静脈、末梢静脈のどちらにも投与できます。I.V. プッシュ又は急速静注での投与は行わないでください。

- 同一の点滴ラインを使用して他の薬剤との同時投与は行わないでください。

- 週1回投与を3週連続し、4週目は休薬する28日間を1サイクルとして投与を繰り返します。

- 薬液が血管外に漏れないように投与してください。

# パドセブ調製のための体重換算表 (参考)

投与量	患者の体重 (kg)	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	≥100	
通常投与量注: 1.25mg/kg (最大 125mg)	パドセブ必要量 (mL)	5.0	5.6	6.3	6.9	7.5	8.1	8.8	9.4	10.0	10.6	11.3	11.9	12.5	
	必要なバイアル数 (本)	2	2	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	5	
	希釈後の濃度※(参考) (mg/mL)	50mL	0.91	1.01	1.11	1.21	1.30	1.40	1.49	1.58	1.67	1.75	1.84	1.92	2.00
		100mL	0.48	0.53	0.59	0.64	0.70	0.75	0.80	0.86	0.91	0.96	1.01	1.06	1.11
		150mL	0.32	0.36	0.40	0.44	0.48	0.51	0.55	0.59	0.63	0.66	0.70	0.73	0.77
		200mL			0.30	0.33	0.36	0.39	0.42	0.45	0.48	0.50	0.53	0.56	0.59
250mL							0.31	0.34	0.36	0.38	0.41	0.43	0.45	0.48	
1段階減量注: 1.0mg/kg (最大 100mg)	パドセブ必要量 (mL)	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0	8.5	9.0	9.5	10.0	
	必要なバイアル数 (本)	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	4	4	
	希釈後の濃度※(参考) (mg/mL)	50mL	0.74	0.83	0.91	0.99	1.07	1.15	1.23	1.30	1.38	1.45	1.53	1.60	1.67
		100mL	0.38	0.43	0.48	0.52	0.57	0.61	0.65	0.70	0.74	0.78	0.83	0.87	0.91
		150mL			0.32	0.35	0.38	0.42	0.45	0.48	0.51	0.54	0.57	0.60	0.63
		200mL						0.31	0.34	0.36	0.38	0.41	0.43	0.45	0.48
250mL										0.31	0.33	0.35	0.37	0.38	
2段階減量注: 0.75mg/kg (最大 75mg)	パドセブ必要量 (mL)	3.0	3.4	3.8	4.1	4.5	4.9	5.3	5.6	6.0	6.4	6.8	7.1	7.5	
	必要なバイアル数 (本)	1	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	
	希釈後の濃度※(参考) (mg/mL)	50mL	0.57	0.63	0.70	0.76	0.83	0.89	0.95	1.01	1.07	1.13	1.19	1.25	1.30
		100mL		0.33	0.36	0.40	0.43	0.46	0.50	0.53	0.57	0.60	0.63	0.67	0.70
		150mL						0.31	0.34	0.36	0.38	0.41	0.43	0.45	0.48
		200mL										0.31	0.33	0.34	0.36
250mL															
3段階減量注: 0.5mg/kg (最大 50mg)	パドセブ必要量 (mL)	2.0	2.3	2.5	2.8	3.0	3.3	3.5	3.8	4.0	4.3	4.5	4.8	5.0	
	必要なバイアル数 (本)	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	
	希釈後の濃度※(参考) (mg/mL)	50mL	0.38	0.43	0.48	0.52	0.57	0.61	0.65	0.70	0.74	0.78	0.83	0.87	0.91
		100mL						0.31	0.34	0.36	0.38	0.41	0.43	0.45	0.48
		150mL												0.31	0.32
		200mL													
250mL															

●希釈後の濃度は 0.3 ~ 4.0mg/mL でなければならない。

注: 副作用の発現により減量する場合は、減量の目安を考慮して算出する。詳細は、最新の添付文書7. 用法及び用量に関連する注意を確認すること。  
※希釈後の濃度は、輸液バッグ又はボトル容量を50,100,150,200,250 (mL) として算出